



ライセンスの管理

[Administration] > [Licenses] ページでは、Prime Infrastructure、ワイヤレス LAN コントローラ、および Mobility Services Engine (MSE) のライセンスを管理できます。

[Administration] > [Licenses] ページから Prime Infrastructure および MSE のライセンスを管理する場合には制限はありませんが、Wireless LAN Controller (WLC) は表示のみ可能です。WLC または Cisco License Manager (CLM) を使用して、WLC ライセンスを管理する必要があります。



ヒント

Prime Infrastructure ライセンスの詳細については、[Cisco.com](https://www.cisco.com) でマルチメディア プレゼンテーションを参照してください。Prime Infrastructure に関するさまざまなトピックについての学習モジュールもあります。今後のリリースに合わせて、学習を強化する概要プレゼンテーションおよび技術プレゼンテーションが追加されていく予定です。

- 「[Prime Infrastructure ライセンス](#)」 (P.11-1)
- 「[コントローラ ライセンス](#)」 (P.11-5)
- 「[MSE ライセンス](#)」 (P.11-7)
- 「[アシュランス ライセンス](#)」 (P.11-12)

Prime Infrastructure ライセンス

ネットワークの管理に必要な Prime Infrastructure の機能にアクセスするためにライセンスは購入されています。各ライセンスは、これらの機能を使用して管理できるデバイスの数を制御します。

基本ライセンスおよび、デバイスの数を管理するそれぞれの Prime Infrastructure 機能へのフルアクセスを取得するために対応する機能ライセンス（保証やライフサイクルのライセンスなど）が必要です。

初めて Prime Infrastructure をインストールする場合はデフォルトで使用できる組み込みの評価ライセンスを使用してライフサイクルと保証機能にアクセスできます。デフォルトの評価ライセンスは 100 台のデバイスに対し 60 日間有効です。次の場合に、ask-prime-infrastructure@cisco.com にリクエストを送信できます。

- 評価期間を延長する必要がある
- デバイス数を増やす必要がある
- すでに特定の機能のライセンスがあり、他の機能のライセンスを評価する必要がある

評価ライセンスの期限が切れるまでに基本ライセンスを購入してから対応する機能ライセンスを購入する必要があります。お客様が購入したライセンスは、以下の内容に対応している必要があります。

- ネットワークを管理するのに使用するすべての Prime Infrastructure 機能にアクセスできる。

- Prime Infrastructure を使用して管理するネットワーク内のすべてのデバイスが含まれる。

これらの目的を達成するライセンスを所有していることを確認するには、次の内容を実行します。

1. 使用可能なライセンス パッケージのタイプおよび要件を理解します。「[Prime Infrastructure ライセンスの購入](#)」(P.11-2) を参照してください。
2. 既存のライセンスを表示します。ライセンスの発注およびダウンロードのサポートについては、「[ライセンス詳細の確認](#)」(P.11-3) を参照してください。
3. 必要な機能のパッケージおよび管理する必要があるデバイス数の両方に基づいて、必要なライセンス数を計算します。「[ライセンス カバレッジの管理](#)」(P.11-3) を参照してください。
4. 新しいライセンスを追加します。「[ライセンスの追加](#)」(P.11-4) を参照してください。
5. 既存のライセンスを削除します。「[ライセンスの削除](#)」(P.11-4) を参照してください。

すでに Prime Infrastructure または他のネットワーク管理製品を使用し、デバイス カバレッジを拡張する場合は、「[ライセンス カバレッジの管理](#)」(P.11-3) を参照してください。

Prime Infrastructure ライセンスの購入

アクセスするために必要な機能に基づいて、次のライセンスを購入します。

- 基本ライセンス : Prime Infrastructure 管理ノードごとに 1 つの基本ライセンスが必要で、機能ライセンスを追加するための必要条件です。
- ライフサイクル ライセンス : ライフサイクル ライセンスのタイプは管理対象デバイスの数に基づいています。ライフサイクル ライセンスは次の Prime Infrastructure ライフサイクル管理機能にフルアクセスを提供します。
 - デバイス設定管理およびアーカイブ
 - ソフトウェア イメージ管理
 - 基本的な稼働状態およびパフォーマンスのモニタリング
 - トラブルシューティング

1 つの基本ライセンスを発注する必要があります。その後で、Prime Infrastructure ライフサイクル管理機能にアクセスするために必要に応じてライフサイクル ライセンスを購入します。ライフサイクルのライセンスは、25、50、100、500、1000、2500、5000、および 10,000 台のデバイスのバンドル サイズで利用でき、組み合わせることができます。

- アシュランス ライセンス : アシュランス ライセンスは、NetFlow モニタ対象デバイスおよび Network Analysis Module (NAM) データ収集有効のデバイスの数に基づいています。
 - 1 台のデバイスの複数のインターフェイスで有効になっている NetFlow は、アシュランス ライセンスで 1 台のデバイスとしてカウントされます。
 - 1 台のデバイスで有効になっている NetFlow テクノロジー (NetFlow、メディアネット、Prime Assurance (PA)、および Network-Based Application Recognition (NBAR) など) は、アシュランス ライセンスで 1 台のデバイスとしてカウントされます。
 - NetFlow がワイヤレス コントローラで有効の場合、NetFlow が生成されたアクティブの各 AP は、アシュランス ライセンスで 1 台のデバイスとしてカウントされます。
 - データ収集が有効になっている各 NAM デバイスは、アシュランス ライセンスでカウントされます。

アシュランス ライセンスは、次の管理機能へのアクセスを提供します。

- エンド ツー エンドのアプリケーション、ネットワーク、およびエンド ユーザ エクスペリエンスの可視性

- Multi-NAM 管理
- WAN 最適化のモニタリング

1 つの基本ライセンスを購入し、必要に応じて追加のアシュランス ライセンスを購入します。アシュランス ライセンスは、25、50、100、500、1000、2500、5000、および 10,000 台のデバイスのバンドル サイズで利用でき、組み合わせることができます。

- コレクタ ライセンス：コレクタ ライセンスは、1 秒あたりのフローの NetFlow 処理に基づいています。デフォルトで、アシュランス ライセンスは、1 秒あたり最大 20,000 フローに対して NetFlow を処理するコレクタ ライセンスを提供します。コレクタ ライセンスを購入し、1 秒あたり最大 80,000 フローをサポートすることもできます。



(注)

[Administration] > [Licenses] > [Files] > [License Files] の下で「Base license is missing」または「Multiple base licenses present, use only one」として警告メッセージが表示されたら、警告を無視して、続行できます。

ライセンス カバレッジの管理

Prime Infrastructure は、物理アプライアンスまたは仮想アプライアンスを使用して展開されます。標準ライセンス センター GUI を使用して、新しいライセンスを追加します。新しいライセンスは、物理アプライアンスの標準 Cisco Unique Device Identifier (UDI) および仮想アプライアンスの Virtual Unique Device Identifier (VUDI) を使用してロックされます。

UDI または VUDI を表示するには、「[ライセンス詳細の確認](#)」(P.11-3) を参照してください。

すでに次の 1 つ以上の製品を使用している場合は、Prime Infrastructure 2.0 にアップグレードできません。

- Prime Infrastructure 1.1.1.24
- Prime Infrastructure 1.2.0.103
- Prime Infrastructure 1.2.1.12
- Prime Infrastructure 1.3.0-20

発注情報については、Prime Infrastructure [\[Support\]](#) ページの発注ガイドを参照してください。



(注)

LMS を使用する場合、以前のインストールから新しい Prime Infrastructure インストールに既存のデータを移行する必要があります。LMS 4.2.x から PI 2.0 にエクスポートできるデータの詳細については、「[Cisco Prime LMS から Cisco Prime Infrastructure へのデータの移行](#)」(P.6-15) を参照してください。

ライセンス詳細の確認

新しいライセンスを購入する前に、既存のライセンスの詳細を取得する必要がある場合があります。たとえば、システムによって管理されている既存のライセンス タイプ、製品 ID、デバイスとインターフェースの制限、およびデバイスとインターフェースの数を確認できます。

ライセンスの詳細を確認するには、[Administration] > [Licenses] を選択してから、[Licenses] の横に表示されるアイコンにカーソルを置きます。

表示されるライセンスの発注のサポート画面には、次の情報が含まれます。

- システムがライセンスされている機能ライセンス

- 発注オプション
- UDI または VUDI

ライセンスの追加

次の場合、新しい機能ライセンスを追加する必要があります。

- 新しい Prime Infrastructure ライセンスを購入したとき
- すでに Prime Infrastructure を使用していて、追加のライセンスを購入しているとき
- Prime Infrastructure にアップグレードする場合は、「[ライセンス カバレッジの管理](#)」(P.11-3) を参照してください。

新しいライセンスを追加するには、次の手順に従います。

-
- ステップ 1** [Administration] > [Licenses] を選択します。
- ステップ 2** Summary フォルダで [Files] をクリックしてから、[License Files] をクリックします。
- ステップ 3** 必要なデバイスの制限で購入したライセンスを選択し、[Add] をクリックします。
- ステップ 4** ライセンス ファイルの場所を参照し、[OK] をクリックします。
-

ライセンスの削除

Prime Infrastructure からライセンスを削除すると、すべてのライセンス情報がサーバから削除されません。後で再度追加する場合は、元のライセンス ファイルのコピーを作成します。いくつかの理由で、ライセンスを削除する必要がある場合があります。

- 一時ライセンスをインストールし、永久ライセンスを適用する前に削除する必要がある場合。
- 別のサーバにライセンスを移動する場合。元のサーバからライセンスをまず削除してから、ライセンスのリホストを要求する licensing@cisco.com に電子メールを送信する必要があります。次に、新しいサーバにリホスト ライセンスを適用できます。

ライセンス ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Administration] > [Licenses] を選択します。
- ステップ 2** Summary フォルダで [Files] をクリックします。
- ステップ 3** [License Files] をクリックします。
- ステップ 4** 削除するライセンス ファイルを選択し、[Delete] をクリックします。
-

ライセンスのトラブルシューティング

ライセンスをトラブルシューティングするには、システムにインストールされているライセンスの詳細を取得する必要があります。ライセンス情報にアクセスするには、[Help] > [About Prime Infrastructure] をクリックします。

表 11-1 は、トラブルシューティングのシナリオおよびヒントのいくつかを提供します。

表 11-1 トラブルシューティング シナリオ

シナリオ	考えられる原因	解決策
Prime Infrastructure は、ライセンス エラーを報告します。	ファイルに変更を加えると、ライセンス ファイルは破損し、使用できなくなります。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既存のライセンスを削除します。 2. 新しいライセンスをダウンロードしてインストールします。
新しい機能ライセンスを追加することができません。	基本ライセンスは、追加機能のライセンスを追加するための前提条件です。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本ライセンスをインストールします。 2. 新しいライセンスを追加します。
デバイスの UDI が一致しないため、ライセンスを追加できません。	その特定のシステムとは違う無効なライセンスが追加されています。	そのデバイス用に購入したライセンスを追加します。
デバイスの状態が管理対象外に変更されました。	デバイスの制限は、ライフサイクル ライセンスの制限以下でなければなりません。インベントリ対象のデバイスの状態は、デバイスを追加または削除すると管理対象外に変わります。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 追加のデバイスを削除します。 2. デバイスの状態は、24 時間の同期の後、管理対象に変わります。 <p>インベントリ対象のデバイスの状態が同期の後に、「管理対象」に変わったことを確認するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Operate] > [Device Work Center] > [Collection Status] を選択します。 2. デバイス名の横の円の上にマウスを移動し、インベントリ収集ステータスを表示します。

コントローラ ライセンス

左側のサイドバーのメニューから [Files] > [Controller Files] を選択するとコントローラ ライセンスをモニタできます。



(注)

Prime Infrastructure は、コントローラ ライセンスを直接管理するのではなく、単にこのライセンスをモニタします。このライセンスは、コマンドライン インターフェイス (CLI) コマンド、Web UI、または Cisco License Manager (CLM) を使用して管理できます。

このページには、次のパラメータが表示されます。

- コントローラ名
- [Controller IP] : コントローラの IP アドレス。
- [Feature] : ライセンス機能には、wplus-ap-count、wplus、base-ap-count、および base が含まれます。

インストールされているすべての物理ライセンスについて、コントローラに機能レベル ライセンスと ap-count ライセンスの 2 個のライセンス ファイルが表示されます。たとえば、コントローラに「WPlus 500」ライセンスをインストールすると、「wplus」機能および「wplus-ap-count」機能が表示されます。組み合わせによって機能レベル (WPlus または Base) および AP カウントを有効にするために、常時、このうち 2 個の機能がアクティブになっています。



(注) WPlus と Base の両方のライセンスを保持できますが、特定の時期にアクティブにできるのは 1 つだけです。

- [AP Limit] : アクセス ポイントでこのコントローラを接続できる最大容量。
- [EULA status] : [Accepted] または [Not Accepted] のいずれかで、エンド ユーザ ライセンス契約書のステータスが表示されます。
- [Comments] : ライセンスをインストールするときにユーザが入力したコメント。
- [Type] : 次の 4 種類のライセンスがあります。
 - [Permanent] : ライセンスはノードロックされており、使用期間は関連付けられていません。これは、シスコ ライセンス ポータルによって発行されるライセンスであり、デバイス上の管理インターフェイスを使用してインストールする必要があります。これらのライセンスをインストールすれば、さまざまなバージョンをまたがって必要な権限を得られます。
 - [Evaluation] : ライセンスはノードロックされておらず、一定期間だけ有効です。永久ライセンス、拡張ライセンス、および猶予期間ライセンスが存在しない場合だけ使用されます。評価ライセンスを使用する前に、エンド ユーザ ライセンス契約書 (EULA) を受け入れる必要があります。このライセンスは、ノードロックされていませんが、ライセンスの使用状況はデバイスに記録されます。アクティブ ライセンスの残日数が最少の評価ライセンスについて、残日数が表示されます。
 - [Extension] : ライセンスはノードロックされており、定量の対象です。これは、シスコ ライセンス ポータルによって発行されるライセンスであり、デバイス上の管理インターフェイスを使用してインストールする必要があります。拡張ライセンスを使用するには、まず、インストール時に EULA を受け入れる必要があります。
 - [Grace Period] : ライセンスはノードロックされており、定量の対象です。これは、ライセンスをリホストするための許可チケットの一部として、シスコ ライセンス ポータルによって発行されるライセンスです。これらのライセンスは、リホスト操作の一環としてデバイス上にインストールされます。リホスト操作の一環として EULA を受け入れる必要があります。



(注) Permanent 以外のタイプでは、ライセンスが期限切れになるまでの残日数が表示されます。現在使用中でないライセンスは、「In Use」にならないうちは、カウントを減算されません。

- ステータス
 - [In Use] : このライセンス レベルおよびライセンスは使用中です。
 - [Inactive] : このライセンス レベルは使用中ですが、このライセンスは使用中ではありません。
 - [Not In Use] : このライセンス レベルは使用中でなく、このライセンスは現在認識されていません。
 - [Expired In Use] : このライセンスは使用中ですが期限切れであり、次のレポートで使用されなくなります。
 - [Expired Not In Use] : ライセンスは期限切れであり、もう使用できません。
 - [Count Consumed] : この ap-count ライセンスは使用中です。



(注) ライセンス ファイルのリストをフィルタする必要がある場合は、コントローラ名、機能、またはタイプを入力して [Go] をクリックします。

MSE ライセンス

MSE には、次のような関連サービス エンジンとアプリケーション プロセスとともに、ネットワーク トポロジ、NMSP などの設計、ネットワーク リポジトリに関連する複数の製品機能が付属しています。

- Context-Aware サービス
- ワイヤレス侵入防御システム (WIPS)

MSE とそのサービスをスムーズに管理できるように、各種ライセンスが提供されています。



(注) MSE とその関連サービスを使用するには、Cisco Prime Infrastructure ライセンスが必要です。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「MSE ライセンスの構成マトリクス」 (P.11-7)
- 「MSE ライセンス ファイルのサンプル」 (P.11-7)
- 「MSE ライセンスの取り消しと再使用」 (P.11-8)
- 「MSE サービスの共存」 (P.11-8)
- 「MSE ライセンスの管理」 (P.11-9)

MSE ライセンスの構成マトリクス

表 11-2 に、MSE、ロケーション サービス、SCM、wIPS および MIR について、ハイエンド、ローエンド、および評価ライセンス間でのライセンスの区別をリストします。

表 11-2 MSE ライセンスの構成マトリクス

	ハイエンド	ローエンド	評価
MSE プラットフォーム	Cisco 3350 および 3355 モビリティ サービス エンジンなどのハイエンド アプライアンスおよびインフラストラクチャ プラットフォーム。	Cisco 3310 Mobility Services Engine などのローエンド アプライアンスおよびインフラストラクチャ プラットフォーム。	—
Context Aware Service	25,000 タグ 25,000 要素	2000 タグ 2000 要素	60 日間有効、100 タグおよび 100 要素。
wIPS	3000 アクセス ポイント	2000 アクセス ポイント	60 日間有効、20 アクセス ポイント。

MSE ライセンス ファイルのサンプル

次に、MSE ライセンス ファイルのサンプルを示します。

```
FEATURE MSE cisco 1.0 permanent uncounted \
  VENDOR_STRING=UDI=udi,COUNT=1 \
  HOST ID=ANY \
  NOTICE="<LicFileID>MSELicense</LicFileID><LicLineID>0</LicLineID> \
  <PAK>dummyPak</PAK>" \
```



```
SIGN="0C04 1EBA BE34 F208 404F 98ED 43EC \
45D7 F881 08F6 7FA5 4DED 43BC AF5C C359 0444 36B2 45CF 6EA6 \
1DB1 899F 413F F543 F426 B055 4C7A D95D 2139 191F 04DE"
```

このサンプル ファイルには、ライセンス エントリが 5 つあります。どのライセンス エントリでも最初の行の先頭の語は、どのタイプのライセンスであるかを示します。これは、Feature または Increment ライセンスのいずれかになります。Feature (機能) ライセンスは、ライセンス付与する唯一の固定アイテムです。MSE で実行しているサービス エンジンは複数ある場合があります。Increment (増分) ライセンスは、追加型のライセンスです。MSE では、個々のサービス エンジンが増分ライセンスとして扱われます。

最初の行の 2 番目の語は、ライセンス付与する特定のコンポーネントを定義します。たとえば、MSE、LOCATION_TAG などです。3 番目の語はライセンスのベンダーを示します。たとえば、Cisco などです。4 番目の語はライセンスのバージョンを示します。たとえば、1.0 などです。5 番目の語は有効期限を示します。これは、期限のないライセンスの場合は permanent、それ以外の場合は dd-mm-yyyy の形式の日付になります。最後の語は、このライセンスをカウントするかどうかを定義します。

MSE ライセンスの取り消しと再使用

MSE アプリケーション ライセンスをあるシステムから取り消し、別のシステムで再使用できます。ライセンスを取り消すと、ライセンス ファイルはシステムから削除されます。ライセンスを別のシステムで再使用する場合は、ライセンスをリホストする必要があります。

別のシステムでアップグレード Stock Keeping Unit (SKU) を使用してライセンスを再使用する場合は、対応する Base ライセンス SKU を、アップグレード SKU を再使用するシステムにインストールする必要があります。対応する Base ライセンス SKU がシステムから削除された場合、そのシステムではアップグレード ライセンス SKU を再使用できません。

ライセンスを取り消すと、ライセンスに対して変更を反映するため、MSE により個別のサービス エンジンが再起動されます。次に、サービス エンジンは、起動時に MSE から更新された容量を受け取りません。

MSE サービスの共存

MSE 6.0 以上では、複数のサービス (Context Aware および wIPS) を同時に実行できます。6.0 よりも前のバージョンでは、Mobility Services Engine では一度に 1 つのアクティブ サービスだけがサポートされていました。

複数サービスを共存させる場合には、以下の点を考慮してください。

- サービスの共存は、ライセンス執行の影響を受けることがあります。ライセンスが有効期限内である限り、複数サービスを有効にできます。



(注) サービスごとに制限事項が異なります。たとえばローエンド Mobility Services Engine (MSE-3310) は合計 2,000 の CAS 要素を追跡し、ハイエンド Mobility Services Engine (MSE-3350) は合計 25,000 の CAS 要素を追跡します。ローエンド Mobility Services Engine で追跡可能な wIPS 要素の最大数は 2000、ハイエンド Mobility Services Engine で追跡可能な wIPS 要素の最大数は 3000 です。

- 有効期限切れの評価ライセンスがあると、サービスが起動できません。

- CAS ライセンスを追加または削除すると、Mobility Services Engine のすべてのサービス (wIPS を含む) が再起動されます。wIPS ライセンスを追加または削除しても CAS には影響しません。wIPS が再起動するだけです。
- 最大数の要素の永久ライセンスが適用されている場合でも、その他のサービスを評価モードで有効にできます。

サービスの 1 つが最大数のライセンスで実行可能になっている場合は常に、別のサービスを並行して実行することはできません。これは、両方のサービスに同時に対応できる十分なキャパシティが MSE がないためです。たとえば、MSE-3310 に 2000 の wIPS ライセンスをインストールしている場合、CAS を同時に実行することはできません。ただし、評価ライセンスはこの制限の対象外です。

MSE ライセンスの管理

左側のサイドバーのメニューから [Files] > [MSE Files] を選択すると Mobility Services Engine (MSE) ライセンスを管理できます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「製品認証キーの登録」 (P.11-10)
- 「クライアント ライセンス ファイルおよびワイヤレス IPS ライセンス ファイルのインストール」 (P.11-11)
- 「Mobility Services Engine のライセンス ファイルの削除」 (P.11-11)

このページには、見つかった MSE ライセンスが表示されます。以下の情報が含まれます。



(注) タグ ライセンスは、該当のベンダー アプリケーションを使用して追加および管理されるため、タグ ライセンスはこのページに表示されません。詳細については、次の URL にある Web サイトを参照してください。
<http://support.aeroscout.com>。
 評価 (デモ) ライセンスも表示されません。

パートナー エンジンを使用してタグが追跡される場合、タグ ライセンスをインストールするには、*AeroScout System Manager* を使用します。その他の場合、タグは CAS 要素ライセンスとまとめてカウントされます。

- [MSE License File] : MSE ライセンスを示します。
- [MSE] : MSE 名を示します。
- [Type] : Mobility Services Engine のタイプ (クライアント要素、ワイヤレス IPS ローカル モード、またはワイヤレス IPS モニタ モード アクセス ポイント) を示します。
- [Limit] : Mobility Services Engine 全体でのライセンスを持つクライアント要素またはワイヤレス IPS モニタ モード アクセス ポイントの総数が表示されます。
- [License Type] : このページに表示されるライセンスの種類は永久ライセンスだけです。
 - [Permanent] : ライセンスはノードロックされており、使用期間は関連付けられていません。これは、シスコ ライセンス ポータルによって発行されるライセンスであり、デバイス上の管理インターフェイスを使用してインストールする必要があります。これらのライセンスをインストールすれば、さまざまなバージョンをまたがって必要な権限を得られます。

製品認証キーの登録

クライアント、ワイヤレス IPS、またはタグのライセンスをシスコに注文すると、製品認証キー (PAK) が配布されます。Mobility Services Engine 上にインストールするライセンス ファイルを受け取るには、PAK を登録する必要があります。PAK の登録に成功すると、ライセンス ファイルが電子メールで送信されます。

クライアントおよびワイヤレス IPS の PAK は、シスコに登録します。



(注) タグ PAK は AeroScout に登録されます。タグ PAK を登録するには、次の URL にアクセスします。
<http://www.aeroscout.com/content/support>

インストールするライセンス ファイルを入手するために製品認証キー (PAK) を登録するには、次の手順に従います。

ステップ 1 ブラウザ ページを開き、www.cisco.com/go/license に移動します。



(注) このサイトへは、Prime Infrastructure の [License Center] ページにある [Product License Registration] リンクをクリックすることによってアクセスできます。

ステップ 2 PAK を入力し、[SUBMIT] をクリックします。

ステップ 3 ライセンスの購入内容を確認します。正しい場合は [Continue] をクリックします。ライセンス入力ページが表示されます。



(注) ライセンスが正しくない場合は、[TAC Service Request Tool] リンクをクリックして問題をレポートしてください。

ステップ 4 [Designate Licensee] ページで、[host ID] テキスト ボックスに Mobility Service Engine の UDI を入力します。これは、ライセンスがインストールされている Mobility Services Engine です。



(注) Mobility Services Engine の UDI 情報は、[Services] > [Mobility Services Engine] > [Device Name] > [System] にある [General Properties] グループ ボックスに表示されます。

ステップ 5 [Agreement] チェックボックスをオンにします。[Agreement] チェックボックスの下に登録者情報が表示されます。

必要に応じて情報を変更します。



(注) 登録者およびエンド ユーザの電話番号に、文字が含まれていないことを確認します。たとえば 408.555.1212 や 408-555-1212 ではなく 408 555 1212 と入力します。

ステップ 6 登録者とエンド ユーザが異なる場合は、登録者情報の下の [Licensee (End-User)] チェックボックスをオンにしてエンド ユーザ情報を入力します。

ステップ 7 [Continue] をクリックします。

- ステップ 8** [Finish and Submit] ページで登録者とエンド ユーザのデータを確認します。必要な場合は [Edit Details] をクリックして情報を訂正してから、[Submit] をクリックします。

クライアント ライセンス ファイルおよびワイヤレス IPS ライセンス ファイルのインストール

Prime Infrastructure から CAS 要素ライセンスおよび wIPS ライセンスをインストールできます。



(注)

タグ ライセンスをインストールするには、*AeroScout System Manager* を使用します。詳細については、次の URL にある Web サイトを参照してください。

<http://support.aeroscout.com>。

PAK の登録後にクライアント ライセンスまたは wIPS ライセンスを Prime Infrastructure に追加するには、次の手順に従います。

- ステップ 1** [Administration] > [License Center] を選択します。
- ステップ 2** 左側のサイドバーのメニューから [Files] > [MSE Files] の順に選択します。
- ステップ 3** [License Center] > [Files] > [MSE Files] ページで [Add] をクリックして [Add a License File] ダイアログボックスを開きます。
- ステップ 4** [MSE Name] ドロップダウン リストから、ライセンス ファイルを追加する Mobility Services Engine を選択します。



(注)

選択されている Mobility Services Engine の UDI が、PAK 登録時に入力したものと一致していることを確認します。

- ステップ 5** [License File] テキスト ボックスにライセンス ファイルを入力するか、該当するライセンス ファイルをブラウズして選択します。
- ステップ 6** [License File] テキスト ボックスに表示されたら、[Upload] をクリックします。新しく追加されたライセンスが Mobility Services Engine ライセンス ファイル リストに表示されます。



(注)

クライアント ライセンスまたはタグ ライセンスをインストールすると、Context Aware Service (CAS) が再起動されます。ワイヤレス IPS ライセンスをインストールすると、ワイヤレス IPS サービスが再起動されます。



(注)

別のライセンスの追加または削除を試行するには、その前にサービスが開始されている必要があります。

Mobility Services Engine のライセンス ファイルの削除

Mobility Services Engine のライセンス ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** [License Center] > [Files] > [MSE Files] ページで、削除する Mobility Services Engine ライセンス ファイルのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 2** [Delete] をクリックし、[OK] をクリックして削除を確認します。

アシュランス ライセンス

「[Prime Infrastructure ライセンスの購入](#)」(P.11-2) の記載のとおり、アシュランス機能のライセンスは、ネットワーク上の NetFlow モニタ対象デバイスおよび Network Analysis Module (NAM) データ収集有効のデバイスの数に基づいています。「[ライセンスの追加](#)」(P.11-4)、「[ライセンスの削除](#)」(P.11-4)、および「[ライセンスのトラブルシューティング](#)」(P.11-4) で説明されているように、他の機能ライセンスと同様に、アシュランス ライセンスを管理、確認、およびトラブルシューティングできます。

これらの機能に加えて、Prime Infrastructure は、アシュランス機能を使用して管理する NetFlow および NAM デバイスも選択できます。たとえば、50 のアシュランス機能のライセンスを所有し、50 を超える NetFlow および NAM デバイスがある場合、最も重要なデバイスだけを管理するように選択できます。後で追加のアシュランス ライセンスを購入する場合は、管理対象外に以前置かれたデバイスにライセンス カバレッジを追加できます。

アシュランス ライセンスの詳細の確認

新しいアシュランス ライセンスを購入する前に、既存のアシュランス ライセンスの詳細および使用されている方法を取得する必要がある場合があります。次の表のリソースを使用して、アシュランス ライセンス情報を検索できます。

表 11-3 アシュランス ライセンス情報の検索

参照内容	以下を選択します
所有しているアシュランス ライセンスの総数に対する割合としてのアシュランス管理下のネットワーク内の NetFlow 対応デバイス。	[Administration] > [Licenses] > [Summary]
所有しているアシュランス ライセンスおよび関連付けられているファイルの総数。	[Administration] > [Licenses] > [Files]
NetFlow または NAM ポーリング データを Prime Infrastructure に送信するデバイスの一覧。	[Administration] > [Licenses] > [Assurance License Manager]
現在使用されているアシュランス ライセンスの数。	
使用可能なアシュランス ライセンスの最大数。	

デフォルトで、[Assurance License Manager] および [Summary and Files] ページ上のアシュランス ライセンスの総合カウントは、アシュランス ライセンスを追加または削除するたびに常に更新されます。ただし、アシュランス ライセンスの追加または削除はシステム定義のジョブで、12 時間に 1 回自動的に実行されることに注意してください。そのため、[Summary] および [Assurance License Manager] ページが追加または削除されたアシュランス ライセンスを表示するのに最大 12 時間かかります。

[Administration] > [Licenses] > [Assurance License Manager] に加えて、[Summary and Files] ページの右上隅にある [Assurance License Manager] リンクを使用して [Assurance License Manager] ページに常にアクセスできます。

NetFlow および NAM デバイスへのライセンス カバレッジの追加

次の場合に、NetFlow または NAM デバイスのライセンス カバレッジを追加する必要がある場合があります。

- 新規または追加のアシュランス ライセンスを購入した場合。
- アシュランス管理に対してすでにライセンスが付与されていない NetFlow および NAM デバイスがある場合。

-
- ステップ 1** [Administration] > [Licenses] > [Assurance License Manager] を選択します。
- ステップ 2** アシュランス管理下に現在あるデバイスの一覧の上で、[Add Device] をクリックします。
- ステップ 3** アシュランス管理下に配置する各デバイスの横にあるチェックボックスをオンにして、[Add License] をクリックします。Prime Infrastructure は、即座にデバイスを追加します。
- ステップ 4** 終了したら、[Cancel] をクリックします。
-

NetFlow および NAM デバイスからのライセンス カバレッジの削除

次の場合に、NetFlow または NAM デバイスのライセンス カバレッジを削除する必要がある場合があります。

- 所有しているアシュランス ライセンスの数に対して NetFlow および NAM デバイスの数が多すぎる場合。
- 1 台以上の NetFlow および NAM デバイスでのアシュランス管理機能の使用を停止する場合。

-
- ステップ 1** [Administration] > [Licenses] > [Assurance License Manager] を選択します。Prime Infrastructure は、現在アシュランス管理下にあるデバイスの一覧を表示します。また、所有しているアシュランス ライセンスの総数、アシュランス管理下のデバイスの総数を表示します。
- ステップ 2** アシュランス管理から削除する各デバイスの横にあるチェックボックスをオンにして、[Remove Device] をクリックします。
-

